

吉田 茂 国際交流基金

平成25年度 八百津町中学生海外派遣事業

中学生海外派遣研修を終えて ～世界は狭い～

八百津町教育委員会 教育課長補佐 村瀬 昭成

帰国して3～4日が経ってもまだ、時差ぼけのせいなのか、自分がまだアメリカに居るような感覚に襲われ目が覚める。

室内を見回し妻の顔を見て日本に帰ってきていることを再認識する。

八百津町の中学生海外派遣研修も今年で11回目を迎えた。

20名の応募があり、選考会で（八百津中学校15名・八百津東部中学校4名・滝中学校（江南市）1名、男子10名・女子10名）応募者全員の海外派遣を決定した。

今年は、男女比が半々であったが、比較的大人しいと聞き、積極的にホストファミリーの中に溶け込み、ホームステイが無事務まるか非常に心配な面を感じた。

また、今年度から応募対象を町内の中学校だけでなく、八百津町在住の町外学生も対象とし門戸を広めた結果、町外就学者1名の参加があった。

2回の説明会及び4日間にわたる事前研修で、アメリカの文化や生活についての知識を得、英会話の練習やJAPAN NIGHT PARTYで披露する催し物の打合せや、ホストファミリーからリクエストのあった盆踊り「炭坑節」の練習をするなど、万全の準備を整え、結団式を経て出発の日を迎えることとなった。

ワシントンDCに到着するなり慌ただしく生徒達を送り出し、6日間のホームステイが終わると同時にニューヨークに向かい、帰国の途についた10日間であった。私を含めて、生徒たちには初めて経験することばかりで、見るもの



触るもの全てが新鮮で、驚きの連続であったと思う。

また、見学に行く先々でのセキュリティーチェックの厳重さにアメリカの抱える問題について考えずにはいられなかった。帰国してから数日が経ち、落ち着いたところで出発式から25日夜の解団式までの軌跡をもう一度辿ってみようと思う。

出発の日 8月16日(金)

8:45(日本時間) 出発式が少し遅れて始まったため、前途に一抹の不安がよぎった。私を含めた24名の団員は、パスポート等持ち物の最終確認をして出発。バスの中では泉添乗員さんから出国・入国などの手続きや書類の書き方などを教わり、セントレア到着。

八百津町を担当し今年で4回目とのこと。手際の良さに感心する。

12:30(日本時間) スーツケースを預け、手荷物チェック・出国審査等を受け、いよいよDL-630便に搭乗。

13:20(日本時間) 約13時間という長旅に出発。機内では座席に備え付けてあるタッチスクリーンで映画やゲームを楽しみ、4回程度の機内食サービス及びドリンクサービスで、空腹感を感じることはなかった。途中で日付変更線を通り、13時間戻ることになり、半日得をしたかなと錯覚する。



13:00(米国時間) デトロイト空港に到着。2時間程度空港内を散策、子ども達も空港の大きさに驚きながらも自由時間を満喫。その後、DL-2062便でワシントンDCへ出発。

17:15(米国時間) ワシントン・ダレス国際空港に到着。空港でシンプソンさんたちに出迎えられた。いよいよ生徒たちもこれから始まる

研修の最大の目的であるホームステイに期待と不安を抱きながらの移動となった。

空港からバスでホストファミリーが待つホテルまで、いざ出発。

18:45(米国時間) スリープインホテル着。ホテルでは既にホストファミリーたちがそれぞれ生徒の名前を書いたプラカードを掲げての歓迎。如何にも“米国らしい”そんな気持ちを覚えた。

